



議会 だより この1年も本会議で積極的に質問し、さまざまな問題に取り組んで参りました。

平成29年2月議会は新しい任期最初の議会でしたので改めて身の引き締まる思いで質問しました。

1 保健福祉行政について

・ひきこもりの長期化・高年齢化問題について

平成28年に公表された内閣府の調査によると、6ヶ月以上にわたり仕事や学校に行かず自宅にいる15～39歳のひきこもりの人が全国で推計54万人以上いることがわかり、ひきこもりの期間は「7年以上」が約35%と最も多く、ひきこもりの状態になった年齢も「35歳以上」が5年前の調査と比べ倍増するなど「長期化・高年齢化」の傾向が見られます。

また、今回の調査は対象が15歳から39歳までということで40歳以上の実態については把握できていない、ひきこもりの長期化と高年齢化は大きな課題です。本人はもとより親や家族も年齢を重ね、病気や要介護あるいは亡くなることなどにより、面倒を見られなくなったり、経済的に困窮するケースも増えてくると思われる。早期に実態を把握し対策を講じることが必要ではないか尋ねました。

・障がい福祉サービスから介護保険への移行によるサービスの低下について

障がい者の方は、65歳になるまではその障害に応じて障がい福祉サービスを受けることが出来ますが、65歳になると介護保険のサービスに切り替わります。

ただし、介護保険は要介護度に応じて受けられるサービスが変わり、上肢や下肢に障害がない場合、比較的要介護度が低くなり、65歳まで受けられていた従来のサービスが65歳になったとたん受けられなくなります。特に視覚障がい者などは大変お困りです。国の問題でもありますが、本市において対策ができないものか尋ねました。

・ヘルプマークとカードの普及について

※（ヘルプマークとは内部障害や難病の方、または妊娠初期の方など、配慮や手助けを必要としていることが外見ではわかりづらい方が、周りの方にそれを知らせ、理解や援助を得やすくなるよう、東京都が考案した赤地に白抜き十字とハートをあしらったもの）

2 子育て支援について

・母子手帳の機能を搭載したアプリの提供について（電子母子手帳について）

・仕事と子育ての両立支援について

（時間の関係で要望）

3 教育行政について

・大学入試改革とアクティブラーニング推進事業について

・経済格差が生む子どもの体験格差について

9月議会は、会派を代表して質疑を行い、昨年度の決算について幅広く尋ねました。（議員が議会で行う発言の中に、「質問」と「質疑」があり、質問は議長に通告は必要ですが、市長に自由に質問ができます。質疑の場合は市長が提出した議案についてその内容や不明な点を聞くもの）



本市の雇用情勢と深刻な中小企業等の人材不足について 三宅まゆみ (ハートフル北九州)

1 平成28年度の評価と今後の財政運営について

2 女性活躍の推進について

・働きながら産み、育てやすい社会の実現に向けた本市のこれまでの取り組みの実績と今後の方針について

3 安全安心なまちづくりについて

・昨年の二島での道路冠水などを上げ、今後の豪雨対策の取り組みについて尋ねました。

4 観光とスポーツによる賑わいの創出について

・クルーズ船の誘致による賑わいの創出についてのその成果と課題。今後の取り組みについてと本市独自の観光資源を活用した誘致の状況

・スポーツによる賑わいの創出について

①都心集客アクションプランにおいて、スタジアム建設を踏まえた小倉駅新幹線口エリアの集客対策を強化し、賑わいを創出することを目標としたが、スタジアムのオープンにあたり、どのような取り組みを行ったか、そしてどのような成果があったのか。

②今後スタジアムを最大限活用し、さらなる賑わいを生み出すことが重要。これまでの大規模なスポーツ大会の誘致にかかる取組みと、今後の展開。

③今後様々なスポーツ大会が開催されることによる市内外からの集客にも期待するが、東京オリンピック・パラリンピックの開催も控え、スポーツを核とした街の盛り上げ、賑わいづくりについてこれまでの取り組みや今後の見通しについて。

5 学術研究都市周辺の教育環境の充実と子育て支援について

・次に懸念されるのが中学校の容量。今後一部エリアは高須中学校に通学区域が変更される予定ですが、もともと学校規模が大きい洞北中学校ではこの先、生徒の受入れが難しくなる可能性があるのではないかと。中学校の新設を望む保護者の声もある。今後のこの地区の中学校をどのように考えられるか？

・グローバル化の進展を受け、国の英語教育改革が進められている。学術研究都市には大学等への留学生も多くいるこの環境を活かし、英語だけでコミュニケーションをはかりながら体験型のプログラムを通じて使える英語を学ぶ、「英語村」を学術研究都市につくってはどうか尋ねました。

6 投票率の向上について

・選挙の意味、大切さについて、子どものころから知る機会を設けることや、若年層への啓発の強化と、あらゆる方に配慮した投票所の見直しや投票方法の見直し、投票所への移動支援、また商業施設への投票所の設置など、利便性の向上にも取り組んでいただきたいと要望。→一部ショッピングモールに投票所設置の方向へ

12月議会は特に雇用問題について、同じ会派の森本議員と30分ずつ角度を変えて質問しました。

1 本市の雇用情勢と深刻な中小企業等の人材不足について

・現在仕事を求める人よりも、人を求める企業の方が多くなっており、これを職業別に見ると、建設・採掘、サービス、運輸・機械運転、生産工程などの職業において、さらに深刻な状況が見えてきます。

仕事はあるけど人材不足で現場が回らないという声を多くの方からお聞きします。今後も厳しい状況が続けば、中小企業等においては会社の存続自体が危ぶまれますし、大企業の仕事も多くの中小企業が請け負っており、大企業にも大きな影響が出てくると思われる。

また人材確保が難しくなっていること背景に、勤務条件等に関する希望が多様化し、変化してきていることもあり、夜勤や三交代勤務の職場は敬遠され、日勤や土日が休みの職場を希望する人が多くなっています。夜勤等でハードでも賃金が高ければ集まっていた人材も、最近では休日などの働き方を重視する傾向にあります。

ものづくりのまちとして発展した本市には、製造業を中心に夜勤や三交代勤務が必要な業種が多くあります。求人と求職のミスマッチを解消し、これらの業種が人材を確保するための支援が重要です。敬遠されている仕事のイメージアップや魅力の発信、専門的スキルを持った人材の育成など、市として支援できることはないか？また、企業の中には外国人の技能実習制度を活用しようとする会社もありますが、この制度は開発途上国等の経済発展を担う「ひとづくり」に協力することを目的とした制度であり、企業の人材確保策にはなっていません。

業種によって違いますが1年から5年と期限が決まられており、企業にとっては費用もかかる上、技術を習得した頃には帰国しなければならない制度となっています。外国人労働者の活用にはさまざまな議論があるが、慢性的な人材不足解消には、今後のあり方を検討するべきではないか尋ねました。

2 基本的な生活習慣の向上と子育て支援について

3 災害時の避難場所への誰もがわかりやすいサインについて

・本市においても市内各所に予定避難所までの案内図を設置したり、避難場所を示したサインが設置されているが、避難時に案内図の地図を確認するのは時間が掛かり、サインが小さな表示では見えにくかったり、見落とされたりする可能性もあります。また、観光客など市外の方や、地域外の方からすれば、施設名や住所よりも「どっちに避難所があるか」がひと目で分かる、目立つサインが有効だと考える。



(福岡市の例)

市内全域での設置には費用もかかると思いますが、段階的にでも取り組んでいくべきと考える。本市災害時の避難場所への誰もがわかりやすいサインの設置についての見解を尋ねました。

他

詳しくは、議会のホームページから議事録をご覧ください。



文化のかおるまち北九州へ

年末に本市出身のヴァイオリニストの中村太地（だいち）さんとご一緒させていただいたときの写真です。中村さんは毎年オーストラリアで開催されるブラームス国際コンクールで昨年日本人初ヴァイオリン部門で世界一に選ばれました。

お母様が若松区のご出身でもあります。本市には同じく若松区にゆかりのあるヴァイオリニスト南紫音さんもお活躍されていますが、本市出身の優れた音楽家が世界的に活躍されておられることを誇りに思います。市民憲章にもある文化のかおるまちを更に実現する

ためにも頑張っている方々をこれからも応援していきたいと思っております。

中村さんは平成28年に市民文化賞奨励賞も受けられており、記念コンサートが今年3月10日18時30分から響ホールにて北九州市と北九州市教育委員会の共催で行われます。よろしければお出かけ下さい。



右から2番目